

日本GW協会 20周年記念行事に参画して

竹谷裕之

日本グラウンドワーク協会は1995年に財団法人として設立、今年は20周年記念の年に当たります。去る10月7日から9日にかけて、20周年記念セミナーを中心に首都圏で記念行事を実施しました。記念セミナーには全国各地の活動団体、並びに農水省・国交省・環境省、地方自治体、企業等の関係者、合わせて266名の方々、それにGW イギリス連合の理事長氏と専務理事が参加し、「住民・企業・行政のパートナーシップによる地域再生に向けて」をテーマに、農水省農村振興局局長・GWUK 理事長の基調講演とGWUK 専務理事の事例報告、それに続いてこれら3人にGW 笠間・多気町勢和地域資源保全活用協議会・茨城大学のらボーイ&のらガールを加えてパネルディスカッションが行われ、参加者から、「今日は充実した内容で本当に良かった」、「これから何をすべきか見えてきた」との感想を頂きました。GW 東海からは山本千夏さんが参加、交流会で挨拶頂きました。

この機会に、GWUK と日本グラウンドワーク協会の新連携協定を締結したことも成果でした。またGWUK の二人には、田んぼの学校など自然と環境を楽しむGW 西鬼怒と、グランパとグランマのお店などシルバー人材活用のGW 笠間における現地交流会、大学生との意見交換会に参加、農業・農村資源を活用した日本のGW 活動を生きた形で知って頂き、イギリスとの対比で有益なコメントをいくつも提示頂きました。

農業・農村が持つ多面的機能支払いが制度化され、本格的に実施されるなか、多面的機能保全発揮活動をバージョンアップする上でも大いに参考になる内容でした。日本でGW 活動が始まる時期、環境改善・地域活性化は地球レベルで考え、地域で行動する時代に入っていったことを思い起こしますが、この活動を地域住民・行政・企業のパートナーシップによって推し進め、持続可能なコミュニティを構築することがいよいよ重要となっています。GW 東海にとっても、時代の求める課題に努めていくことが重要ではないかと考えています。